美深高等学校同窓生等インタビュー第２回目は昭和３６年卒業の大賀圭治さんです。
現在、横浜市に在住されていますので、メールにてインタビューに答えていただきました。

Q　経歴と現在の様子を教えてください。

A　現在 75 歳 9 ヶ月（1942 年 12 月生まれ）

現在、東京大学名誉教授ですが、無職です。食料貿易論、世界の食糧需給予測、食料環境問題などを研究してきました。細々ながら、現在も研究活動を続けています。依頼に応じて政府や関係の研究会、政策検討会などの委員や、講演活動をしています。

1961 年に美深高校を卒業し、同年東京大学理科Ⅰ類に入学しました。入学後、理工系には向いていないことに気づき、進路について迷いに迷って、2 年で終えるはずの教養課程を 4 年もかけた後、農学部農業経済学科に進学、1967 年に卒業、大学で学んだことを生かせる場として、農林水産省に就職しました。


全校舎落成（昭32年10月）
30年５月から３年計画で工事に着手　（当時の校舎）

農水省に入省後の最初 15 年間は行政職で、農地行政、経済企画庁（原内閣府）出向で経済計画、農水省で食料需給計画、農産物貿易交渉などに関わりました。1974 年に私がリーダーとなって、日本で初めての世界食料需給モデルの開発と予測を行いました。その経験を基に、1977 年から 1980 年まで 3 年間国連食糧農業機関（FAO）の専門家としてローマ本部に勤務し、世界の食料需給モデルの開発と予測作業に携わりました。帰国後、農水省で再度、世界食料需給モデルの改良と予測を行い、この時の部下が FAO に派遣され、私共が開発した世界食料需給予測モデルはその後約 20 年間、FAO の公式のモデルとして利用されました。

1983 年に希望して研究職に変わり、農水省傘下の農業総合研究所に勤務しました。そこでの最初の仕事が牛肉需給モデルの開発による牛肉輸入自由化の影響の予測でした。この予測結果を 1985 年日本農業経済学会の大会で発表しましたが、社会的に大きな反響を呼び、その後 1 年あまりの間は講演依頼で全国を駆け回り、美深町でも講演をさせていただきました。その後、米の輸入自由化の影響予測に取り組みましたが、その結果の発表は政策的配慮からお蔵入りにされました。


校舎落成道立移管記念式典
（昭33年５月25日）

その後、1990 年から 1993 年まで 3 年間、アメリカの首都ワシントン D.C.にある国際食料政策研究所に招かれ、3 年間世界食料需給予測モデルのパソコンバージョンの開発に取り組みました。1993 年に日本に帰国後、間もなくつくば市の国際農林水産業研究所に派遣され、その後の 5 年間、農林水産業分野の国際研究協力の情報分析と研究戦略の企画調整に携わりました。

1998 年東京大学大学院農学研究科に、農学分野での国際協力研究と教育をするために新設された農学国際専攻の教授となり、6 年間、国際環境経済研究室を主催し、世界的視野で農林水産業と環境問題の関連についての研究と教育に携わりました。2004 年 3 月東京大学を定年退官した後、同年 4 月から日本大学生物資源科学部（旧農獣医学部）食品経済学科（現食品ビジネス学科）国際環境経済学研究室の教授として教育に携わりましたが、2014 年 3 月 70 歳で定年退職しました。2015 年 3 月には日本農業研究所の客員研究員も退職し、現在は無職の年金生活者です。

Q　美深町での思い出（幼少期など）を教えてください。

A　私の家は大通りから 8 線通りを美深橋に向かって 100m 弱の、現在の役場前広場（昔の美深小学校跡地）横 50m のところにあり、遊び場は 8 線通り、小学校の校庭、夏は美深橋周辺の天塩川、8 線通りから美深橋を通って突き当たりの山々などで。石蹴り、缶蹴り、野球、泳ぎ、山菜採りなど山遊び、川遊び（主として美深橋周辺の天塩川で）魚釣りなどでした。

小学校時代は学校から帰ると暗くなるまで外でもっぱら男友達と遊んでいました。父が魚釣り（ヤマベ釣り）が大好きであり、私は何度もウルベシ川、バンケ川、ペンケ川など山奥まで連れて行ってもらいました。美深町の夏祭り、秋祭り、町内や周辺のお寺のお祭りや小、中、高校の運動会の前夜は興奮して眠れないほど楽しみでした。小学校時代はひどい悪ガキで、母は近所に私を連れて謝って歩いた事がたびたびであったと、昨年死ぬまで何度となく聞かされました。夏には美深橋の近くの河原でたき火をし、暖をとりながら、時に唇が青ざめてくるまで夢中になって泳いでいました。雪解け時の天塩川の氷の上で遊ぶなど、今思い出すとぞっとするような危険な事もしていましたが、自然の中での遊びを思いっきり楽しみました。


第１回運動会（昭和３３年９月）

昨年亡くなった母の遺品の中に私の小学校1年から高校3年までの通信簿がありました。小学校１年の通信簿に「要はわがままなんです」と書かれていることを見てもわかるとおり、小学時代は、手に負えないような悪ガキだったようです。中学生になってから、少しずつ勉強をするようになり，成績も良くなってきました。


春の遠足　――智東橋――

Q　美深高校での活動の様子（部活動・行事・お世話になった先生や友人との思い出）を教えてください。

A　父からは高校受験は名寄高校の商業科にするようにいわれていたのですが､私は美深中学校の大部分の友達が進学する美深高校を希望し､帰宅後夜 10 時まで家業の洋服仕立業の手伝いをすることを条件として父の許しを得ました｡美深高校は普通高校で 1 学年 100 人、50 人ずつの 2 クラスでしたが､1 クラスは普通コース､他の 1 クラスは商業コースでした。私は 1 年生の間は、商業コースで簿記を教わり、普通科の生徒より英語の時間が少なく、その後も英語が不得手で、これを克服するため、1 年生の後半に中学の教科書 3 冊を何度も音読して丸暗記したりしました。実は中学 2 年の時、英語の授業が進度に応じてクラス分けされたのですが、私は上級クラスの英語の先生が大嫌いで、担任の先生には無断で、下級クラスの森下先生に頼み込んで、中学 2、3 年の 2 年間は下級クラスで怠けたせいか、英語の苦手意識は、大人になって FAO という国連機関で働くようになっても続きました。

夜 10 時までの洋服仕立ての手伝いという父との約束は守っていましたが､既製服が多くなり、父の仕事がほとんどなくなってきているのを見て、洋服仕立業はやがて消滅すると予感していました。高校 1 年の夏頃には、大学進学を密かに考え始めていましたので、4 時半に帰宅、夜 10 時まで洋服仕立て見習いと手伝いをし、10 時以降、午前 2 時頃まで 2 階の自分の部屋で大学受験を目指して、猛勉強をしました。

国語、社会を教えていただいた飯田秀夫先生が 3 年間担任でした。飯田先生には大学生活の思い出話を聞かせていただき、大学進学の思いを強くしました。授業は私にとっては貴重な勉強時間でしたので真剣に取り組みました。私の得意だった日本史は教える先生がいなかったため授業がなく、社会科の受験科目は世界史と人文地理にしたのですが、石川先生の世界史の授業は西洋史のみ、それもフランス革命までで終わってしまい、後半分の東洋史と、現代史は全て独学しなければならず、苦しい思いをしました。部活動といえば、2 年生の時、化学部は事実上私と室蘭工大に進学した足立君の二人だけで、毎日放課後に化学実験室で教科書に説明があるほぼすべての実験をしました。

ボール遊びはもともと苦手でしたし、その時間的余裕もなく、運動系の部活動には全く参加できませんでした。学校の行事ではクラス対抗の雪祭りで大きなミロのビーナスをつくり、卒業アルバムにも載っています。ミロのビーナスは私のアイディアだと勝手に思い込んでいます。

思い出の行事



第1回　雪像コンクール

高校2年生になると密かに大学進学を心に決め､父の許可を得ないまま普通科へ変更し、必死になって受験勉強に取り組み初めました。女子や美深中学出身の男子の同級生の多くは就職希望で、青春を謳歌しているように思いましたが、私には青春を楽しむゆとりはなく，友人の恋愛（ごっこ？）をラブレーターの運び屋をしながら、垣間見ていました。高校時代の友人の多くは、B クラスの恩根内、紋穂内、咲来、音威子府からの汽車通学の男子で、全員が大学進学希望者でした。彼らとの交流は現在も続いています。



美高祭前夜祭でのファイヤーストーム（昭34年）

Q　最後に現在の美深高校生に期待することやアドバイスをお願いします。

A　現在の高校生は私の孫の世代です。私の父は24年前、母は昨年この世を去りました。私が高校を卒業してから57年です｡美深町も町民も美深高校生も私の高校生の頃とは想像もできないほど変わっています。現在の大人の世代までは、日本には欧米という手本にできる世界がありました。しかし、現在は日本も世界の中で最も進歩した先進国の一つになりました。日本が追いかける手本のとなる国、社会はなくなったのです。

これからの時代を生きる現在の高校生、中学生、小学生の未来は、一人一人が自らの力と責任で切り開いていかなければなりません。皆さんは、自らが新たな社会を切り開くという気概と勇気を持って生きて下さい。

※写真は本校３０周年史より引用しました